旧約聖書にみられる神の贈り物

——食べ物の群像——

奥 田 和 子

The Old Testament View of Food as a Gift of God

Kazuko Okuda

Abstract : Foods as they appear in the Old Testament are posited as the foundation of a covenant between God and his people, showing the harmony between nature and human beings and representing the basis of coexistence with nature and other people. Foods are described vividly not merely as sustenance but as a spiritual means to keep a relationship with God. For more than 1200 years, from the era of Exodus (around 1275 BC) to the birth of Jesus Christ (AD 6), people gave thanks for the grace of God, and tried to live in an appropriate manner by the help of foods.

We can see some basic principles here :

1. Food was treated as the third important essential next to water and fire.

2. In pursuit of philanthropy, there were delicate attentions to the poor and the weak.

3. Foods can drive people to irresistible desire or lust. The Bible gives directions for the control of the use of food.

4. Foods were taken according to the covenant with God, following strict rules. The place, time and people partaking of foods were clearly defined, for instance at festivities or times of mourning, receiving guests, occasions of sympathy, sacred places or home, emergency, famine, war or expedition, etc. So, based on TPO (Time, Place, Occasion), kinds of foods or ways of serving were decided.

5. Most foods are products of natural plants. People were making the best of natural blessings, using various recourses.

は じ め に

創世記に描かれるエデンの園では，神は人間に菜食主義を命じている。神は言われた。「見よ，全地に生える，種を持つ草と種を持つ実をつける木を，すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。地の獣，空の鳥，地を這うものなど，すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」（創世記1・29）

しかし，このエデンの園の食べ物は，菜食主義の枠をこえて魚や肉などの食べ物へとひろがる。（創世記18・8）旧約聖書（1）には，生でそのまま飲食できるもの（果物，牛乳など），加工したもの（ワイン，乳など），水や火を使って調理したもの（パン，肉，魚），調味料（塩，酢など），嗜好品などが登場する。

ここでは，食べ物の名前だけでなく，それがどのような状況で，いつ，誰に食べられたかをすくい取りながら，貫かれている食の原理を探る。

1 穀 類

父イサクは年老いてきた。いつ死ぬかわからない。父は息子ヤコブを呼び寄せ息子のために一連の祈りを唱えた。その内容の一つは「どうか神が，天の露（雨）と，地が生み出す豊かなもの，穀物とぶどう酒を息子に与えてくださるように。」である。（創世記28

・27）

すべての食べ物の代表である穀物に注目したい。（表1参照）

その穀類とは，小麦，大麦，裸麦である。刈り入れ時は麦の種類で違い，（出エジプト記9・31～32）大麦刈りは，平野部ではすでに4月に，山丘部では5月半ばに始まる。その後14日後に始まる小麦の刈り入れが終わる時に7週の祭が行われた。（申命記16・9～12）

とくに，その初穂は神への献げ物として重要であった。（レビ記2・14～16，レビ23・114）初物は神のためのものであるから，献げるその日までは決してあなたたちは食べてはならない。（レビ記19・9～10，23・14）と定められている。

刈り入れの時には，注意することがあった。麦の畑の隅まで刈り尽くしてはならないし，収穫後の落穂を拾い集めてはならない。これは貧しい人たちや寄留者のための取り分として残してやるという博愛精神にもとづく。そればかりか，貧しいやもめには，落ち穂だけでなく，わざと刈り取った束から穂を抜いて落としていくようにしたので，やもめは拾い集めた落ち穂で十分に満足できた。（ルツ記2・16）

落ち穂拾いを制度として認め，貧しい人を救済した。こうした博愛の精神が麦畑の農作業にまで生きていることは驚くばかりである。

小麦，大麦は，働く人々の食糧として重要な意味をもっていた。ソロモン（紀元前965年）が神殿を建てるときに，そこで働く木こりや家臣の食べぶちとして小麦2万コル，大麦2万コルを送り届けている。（歴代誌下2・9）（コル：液体の容量で1コルは約230リットル）

また，小麦，大麦などは貴重品であり，畑に隠しておいて殺されそうになるとそれらを引き替えに渡して命乞いをし殺されるのを免れた。（エレミヤ書41・8）

また，穀物は貢ぎ物でもあった。周辺諸国を治めていたソロモン。その彼に諸国民は貢ぎ物を納めた。ソロモンの得た食糧は，日に上等の小麦粉三十コル，小麦六十コル……であった。（列王記上5・2）

耕地は大麦の収穫量に基づいて評価された。「畑の一部を神にささげる場合は，そこに蒔かれる種の量に

表1　穀　　類

穀類	リベカの計画	創世記27・28	どうか神が穀物とぶどう酒をお前に与えてくださるようにと父イサクがヤコブのために祈った。
	雹のわざわい	出エジプト記 9・31～32	神はエジプトの地に雹を降らせた。亜麻と大麦は壊滅した。 大麦はちょうど穂の出る時期で亜麻は蕾の開く時期であった。 小麦と裸麦は壊滅を逃れた。穂の出る時期が遅いからである。
	日毎の献げ物	出エジプト記 29・40	朝と夕にオリーブ油を混ぜた小麦粉を献げる。
	穀物の献げ物	レビ記2・1	上等の小麦粉を献げ物にしなさい。
	穀物の献げ物	レビ記 2・14～16	初穂の献げ物をささげる場合，麦の初穂を火で炒って挽き割にしたものにオリーブ油を注ぎ，乳香を注ぎ，司祭はこの1部と乳香全部をしるしとして燃やして煙りにする。
	聖なる者となれ	レビ記 19・9～10	穀物を収穫するときには，畑の隅まで刈り尽くしてはならない。 収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。 これは貧しい者や寄留者のために残しておかねばならない。
	主の祝祭日	レビ記23・14	初穂の献げ物を神にささげるその日まではあなたたちはパン，炒り麦，あるいはひき割麦を食べてはならない。
	人道上の規定	申命記24・6	挽き臼あるいは上石を質に取ってはならない。
	ボアズの好意	ルツ記2・7	モアブの娘ですが，刈り入れをする人たちの後について麦束の間で落ち穂を拾い集めさせてくださいと願い出た。
	ボアズの好意	ルツ記2・14	ルツが刈り入れをする農夫たちのそばに腰を下ろすと，ボアズは炒り粉をつかんで与えた。
	ボアズの好意	ルツ記3・2	あの人は今晩，麦打ち場で大麦を篩い分けるそうです。
	エリシャの奇跡	列王記下4・41	鍋に死の毒が入っていますと人々は叫んだ。エリシャは麦粉をもって来るように言ってそれを鍋に投げ入れたところ，毒はなくなった。
	エリシャの奇跡	列王記下4・42	一人の男がバアル・シャリシャから初物のパン，大麦のパン20個と新しい穀物を袋に入れてエリシャの所に持ってきた。
	神殿の建築	歴代誌下2・9	ソロモンは輝く威容を誇る神殿を建てようとしているのです。伐採作業に当たるきこり，あなたの家臣に，わたしは小麦2万コル，大麦2万コル，ぶどう酒2万バトを送り届けます。
	ゲダルヤの働き	エレミヤ書 41・8	われわれを殺さないでください。小麦，大麦，油，蜜など貴重なものを畑に隠していますからとイシュマエルに哀願したので，この10人だけは殺さずにおいた。

応じて相当額が決められる。1ホメルの大麦の種が蒔かれる土地は銀五十三シェケルである。」（レビ記27・16）

さて，穀類は麦うち場で打ち，もみ殻と種に分け，ひき臼で粉（小麦粉，麦粉）に挽かれ篩いにかけられパンなどに料理された。小麦も大麦も同様に挽いて篩いにかけられた。（ルツ記3・2）

ひき臼については，人道上の定めがある。「臼あるいは上石を質に取ってはならない。」命そのものを質に取ることになるからであるという。（申命記24・6）貧しい人びとに対する徹底した心くばりである。

献げ物には「上等」な小麦粉という表現が使われている。（レビ記2・5～6, 2・7, 24・5）しかし日常食の場合はそうした表現がない。上等と言うのはきめの細かい小麦粉ではなく，荒い粉でも上等という。（2, p. 206）

麦を火で炒って挽き割りにしたものという表現がある。（レビ記2・14～16，ルツ記2・14）これは麦を穂のまま焙（あぶ）って焼麦にして食べるたりそれを挽いたものである。エッサイは息子ダビデに言った。「兄さんたちにこの炒り麦1エファとこのパン十個を届けなさい。陣営に急いで行って兄さんたちに渡しなさい。」（サムエル17・17）炒り麦は戦場旅行者たちの携帯食に用いられた。

預言者エゼキエルは，神から幻を見せられ神の言葉を聞いた。イスラエルの町は包囲され町の人々の生活は極度に貧しかった。そのために人々は汚れた食べ物を食べた。「あなたは小麦，大麦，そら豆，ひら豆，きび，裸麦を一つの器に入れ，パンを作りなさい。390日間それを食べなさい。」（エゼキエル書4・9）分量も決められている。「あなたの食べる食物の分量は1日につき20シェケル，飲み水は6分の1ヒンである。」（1シェケル：11.4 g，20シェケル＝228 g　1ヒン：3.8 L　6分の1ヒン＝633 ml）「人糞を燃やしてその上でパンを焼きなさい。人糞の代わりに牛糞を用いることを許す。人々の罪のためにパンにも水にも事欠き，痩せ衰える。」（エゼキエル書4・10～17）小麦，大麦といったパンではなく，雑穀の混ざったパン，それも人糞で焼いたパンを食べると言うことは汚れた食べ物というほかはない。人々が犯した罪のためである。（3, p. 525）

2　パ　ン

パンは，用途別にみると日常用と献げ物用とがある。

日常食べるパンは，粉をこねるときに酵母を入れる。しかし，過越祭の日には酵母を入れないパンを食べる。（出エジプト記13・7）これは，イスラエルの民がエジプトでの生活から追放されたとき，素早く出発しなければならず，道中の食糧を用意する暇がなかったからである。（出エジプト記11・8）以後，酵母を入れないパンを食べたことを記念し，その苦しさを忘れないようにするためである。

神にささげる穀物の献げ物はすべて，酵母を入れて作ってはならない。酵母や蜜のたぐいは一切，燃やして神にささげる物として煙にしてはならないという定めによるからである。（レビ記2・11）

形状別では，日常食のパンの場合は不明だが，献げ物の場合には輪型のパンと薄焼きパンとがある。祭司聖別の儀式では輪型のパン（出エジプト記29・1～2, 23），また安息日ごとに供える12個のパンも輪型のパンである。（レビ記24・5）

パンを作るときに使う小麦粉には等級があった。「普通はふすま（種の外皮）を除かない麦粉（ヘブライ語 qemah）で作った。（士師記6・19，サムエル記上1・24，28・24，列王記上4・22，列王記下4・41）しかし，ふすまをよく除いた細かい麦粉（ヘブライ語 solet）で作ったパンはおいしく贅沢とされた。（創世記18・6，列王記上5・2）」（4, p. 697）ふすまをよく取り除いた麦粉は上等という言葉に訳されていて，献げ物，貢ぎ物，パン，菓子などに使われている。

パン生地にオリーブ油を混ぜたり（出エジプト記29・1～2, 23），表面に塗ったり，（出エジプト記29・1～2, 23）オリーブ油を入れない（レビ記2・4）などさまざまである。輪型のパンにはオリーブ油を入れるが，薄焼きのパンにはオリーブ油を入れない。（レビ記2・4）

このような違いは，パンの調理法と関係しているのではないかと考えられる。

パンの調理法は直接鉄板で焼く（レビ記7・9），竈（かまど）で焼く（レビ記7・9），平鍋で蒸す場合（レビ記7・9）がある。鉄板で焼く場合には，パンの形状は薄焼きである。鉄板上でオリーブ油を，生地の上から塗ったり，上から注いだり，中に混ぜ込んだりする（レビ記2・5, 6）。平鍋で蒸す場合，竈で焼く場合ともにオリーブ油を混ぜる。（レビ記2・4～7）

パン菓子という表現が随所に見られる。これは焼き石で焼いた（列王記19・6）とある。同じくパン菓子では酵母を入れないものであり，食事に供したとある。しかし，これはもてなしのために作られたものである。

パンと言う言葉は，食べ物の代名詞のように用いられている。ロト（アブラハムの甥）が妻を連れて旅立ち，その旅先で客を迎える。そのときにパンでもてなしている。また食事のとき「こちらに来てパンを少し食べなさい」と声をかけた。（ヨシュア記5・11）

さらに，あなたを憎む者が飢えているなら，パンを与えよ。渇いている者がいるなら，水を与えよ（箴言25・21）という。ちょうど，私たちが「ご飯ですよ！」と家族に食事を告げるように，パンは日本流ご飯の代名詞のように使われている。ヘブライ語でパンは食事をする意味と同じである。

パンは他の食品と対になっている例が多く見られる。たとえば，「パンと水」「おいしい料理とパン」「パンとレンズ豆」「パンと苦菜」など。パンは主食であった。（表2参照）

パンの争いに触れた箴言もある。「あざむきとった

表2　パ　ン

パン菓子	イサクの誕生の予告	創世記18・6	早く，上等の小麦粉を3セアほどこねて，パン菓子をこしらえなさい。
	ソドムの滅亡	創世記19・2	ロトは酵母を入れないパンを焼いて食事を供し，彼らをもてなした。
	イサク誕生	創世記21・14～19	アブラハムは次の朝早く起き，パンと水の革袋を取ってハガルに与え，背中に負わせて子供を連れ去らせた。革袋の水がなくなると子供は死にかかった。しかし，神の救いによって水のある井戸を見つけることができ革袋に水を満たし子供に飲ませた。
パン	リベカの計略	創世記27・17	母リベカはヤコブにおいしい料理とパンを父親の所にもって行かせた。 おいしい料理とは肥えた子山羊の…
パン	長子の特権	創世記25・34	ある日ヤコブが煮物をしていると，兄エサウはパンとレンズ豆を弟からもらって，その代わりに長子の権利を弟ヤコブに与えた。そしてエサウは飲み食いしたあげくに立ち去って行った。
	主の過越	出エジプト記12・8	酵母を入れないパンを苦菜を添えて食べる。
パン菓子	エジプトの国を去る	出エジプト記11・8	彼らはエジプトから持ち出した練り粉で，酵母を入れないパンを焼いた。練り粉には酵母が入っていなかった。エジプトから追放されたときぐずぐずしていることはできなかったし，道中の食糧を用意するいとまがなかったからである。
パン菓子	除酵祭	出エジプト記13・7	酵母を入れないパンを7日間食べる。
	ホレブに向かったエリヤ	列王記上19・6	起きて食べよ，と御使いが言った。見ると，枕元に焼き石で焼いたパン菓子と水の入った瓶があった。
輪型のパン	祭司聖別の儀式	出エジプト記29・1～2, 23	酵母を使わずにオリーブ油を混ぜて焼いた小麦粉の輪型のパン 酵母を使わずにオリーブ油を塗った薄焼きパン，いずれも上等の小麦粉で作る。
パン	幕屋建設の準備	出エジプト記35・13	主が命じられた言葉である。あなたたちの持ち物のうちから主のもとに献納物を持って来なさい。その中に供えのパンがある。
	穀物の献げ物	レビ記2・4	穀物を竈で焼いて献げ物にする場合には，酵母を使わずに，リーブ油を混ぜて焼いた上等の小麦粉の輪型のパンか，オリーブ油を入れない薄焼きパンとする。
		レビ記2・5～6	献げ物を鉄板で焼いて穀物の献げ物とする場合は，酵母を使わずに上等の小麦粉にオリーブ油を混ぜ，それをいくつかの塊に分け，その上にオリーブ油を注ぐ。
		レビ記2・7	献げ物を平鍋で蒸して穀物の献げ物とする場合には，上等の小麦粉にオリーブ油を混ぜて作る。
	各種の献げ物の施行細則	レビ記6・14	上等の小麦粉を使って鉄板の上でオリーブ油を使って作る。 すなわち，よく錬り，何個かにちぎって焼き，献げ物として，半分をささげ，主の宥めの香りとする。
		レビ記7・9	竈で焼いたり，平鍋や鉄板で作られた穀物の献げ物はすべて，これをささげる司祭のものとする。
	12個のパン	レビ記24・5	上等の小麦粉を用意し，輪型のパンを12個焼き2列に並べて主の御前に供える。
	契約のしるし	ヨシュア記5・11	イスラエルの民はエリコで過越祭を祝った。その翌日，その土地の産物を，酵母を入れないパンや炒り麦にして食べた。
	ボアズの好意	ルツ記2・14	食事のとき，ボアズはルツに声をかけた。「こちらに来て，パンを少し食べなさい，一切れずつ酢に浸して。」
	箴言	箴言17・1	乾いたパンの1片しかなくとも平安があればいけにえの肉で家を満たして争うよりよい。
		箴言20・1	欺き取ったパンはうまいが，後になって口は砂利で満たされる。
		箴言25・21	あなたを憎む者が飢えているならパンを与えよ。渇いているなら水を飲ませよ。
	イスラエルの罪	ホセア書7・4	パンを焼く者は小麦粉をこねると，膨らむまで，火をかき立てずにじっと待つ。

パンは上手いが，後になって口は砂利で満たされる。」（箴言 20・1）

3　水

水は生きていく上で最も必要不可欠なものとしてすべての飲食物の筆頭に位置づけられている。水，火，塩，小麦粉，牛乳，蜂蜜，ぶどうの木，オリーブ油の順になっている。（シラ書 39・26）

アブラハムの妻サラは妻妾（女奴隷）ハガルを追い出してくれと夫に言う。そこで，アブラハム（夫）は翌朝女奴隷の背中にパンと水を背負わせて子供とともに家から追い出した。水は革袋に入れて持ち歩かれたが，革袋の水がなくなると女奴隷の子供は死にかかった。（創世記 21・14～19）水がないことは食べ物より先に死を招くと述べている。（表 3 参照）

その貴重な水はどのようにして得られたのだろうか。エジプト人は皆水を求めてナイル川の周りを掘った。（出エジプト記 7・23）水が豊かに出る井戸を見つけることが生命の源となった。だから井戸をめぐる争いが起きている。

アブラハムが僕（しもべ）たちに掘らせた井戸を，ペリシテ人は敵意でもって土で埋めてしまいアブラハムを困らせ園と地から追い出した。（創世記 26・15）

また井戸の所有権をめぐって争いが起こった。（創世記 26・15）とくにエジプトを出てカナンにたどり着くまでの荒れ野での野営中，水がなくモーセが水を出す奇跡を行っている。

また井戸の水を勝手には飲むことはできなかった。まず頼んで，相手から「どうぞ」と赦しを得てから飲んだ。家畜も人と同様に井戸の水を飲んだ。（創世記 24・45～46）

喉の渇いた人に水をあげない事は以下のように罪であるという。

あなたは甚だしく悪を行い
限りなく不正を行ったではないか
あなたの兄弟から質草をとって何も与えず追い払い
すでに裸の人からなお着物を剝ぎ取る
渇き果てた人に水を与えず，
飢えた人に食べ物を拒んだ　　（ヨブ記 22・5～7）

パンと水はセットで重要視されている。つまり，箴言は，あなたを憎む者が飢えていればパンを，渇いていれば水を与えよと言う。（箴言 25・21）

預言者エリヤは王からの食事の招きを断った。それは神がエリヤにパンを食べるな，水を飲むなと戒めておられたからである。（列王記 13・9）エリヤは神のお告げによって川のほとりに身を隠し，朝はパンと肉，夕はパンと肉を食べ，水は川から汲んで飲んだ。（列王記 17・6）

表 3　水

水	イサク誕生	創世記 21・14～19	アブラハムは次の朝早く起き，パンと水の革袋を取ってハガルに与え，背中に負わせて子供を連れ去らせた。革袋の水がなくなると子供は死にかかった。しかし，神の救いによって水のある井戸を見つけることができ革袋に水を満たし子供に飲ませた。
	イサクとリベカの結婚	創世記 24・45～46	リベカが水を汲みに来た。「どうか水を飲ませてください」と頼むと「どうぞお飲みください。らくだにも飲ませてあげましょう」と言った。
	井戸をめぐる争い	創世記 26・15	水が豊かに出る井戸を見つけると，ゲラルの羊飼いは「この水は我々のものだ」とイサクの羊飼いと争った。
	血の災い	出エジプト記 7・23	エジプト人は皆，飲み水を求めてナイル川の周りを掘った。ナイルの水が飲めなくなったからである。
	マラの苦い水	出エジプト記 15・22～23	彼らはシュルの荒れ野に向かい 3 日間進んだが，水はなかった。マラに着いたが，そこの水は苦くて飲むことができなかった。
	岩からほとばしる水	出エジプト記 17・1	イスラエルの人々の共同体全体は，シンの荒れ野を出発し，レフィディムに宿営したが水がなかった。
	メリバの水	民数記 20・5	我々をエジプトから導いて，こんなひどい所に引き入れた。ここにはいちじくも，ぶどうも，ざくろも飲み水さえないと人々は逆らった。そこで主はモーセに仰せになった。杖をとり，水を出せと命じなさいと。
	ベテルの呪い	列王記上 13・9	主の言葉に従ってパンを食べるな，水を飲むなと戒められた。
川の水	預言者エリヤ干ばつを預言する	列王記上 17・6	神がエリヤに告げた。ここを去り，東に向かい，川のほとりに身を隠せ。数羽の烏が彼に，朝パンと肉を，また夕べにもパンと肉を運んできた。水はその川から飲んだ。
	センナケリブの攻撃	列王記下 18・31	わたしと和を結び，降伏せよ。そうすればお前たちは皆，自分のぶどうといちじくを食べ，自分の井戸の水を飲む事ができる。
	箴言	箴言 25・21	あなたを憎む者が飢えているならパンを与えよ。渇いているなら水を飲ませよ。
	主とその御業への賛美	シラ書 39・26	人間が生きていくうえで何よりも必要なものは，水と火，鉄と塩，小麦粉，牛乳，蜂蜜，ぶどうの汁，オリーブ油，それに衣類。

4　マ　ナ

マナについてはいくつかの記述がある。（表4参照）

マナは野に降るとされているが，生では食べず，野から拾い集め臼で粉に挽くか，鉢ですり潰し，鍋で煮て菓子にしたと言う。（民数記下11・7～9）

5　オリーブ油，バター

オリーブの実を打ち落とすときには，後で枝をくまなく探してはならない。（申命記24・20）人道上の定めとして盛り込まれている。もちろん貧しい人たちが拾うためのもの。あの手この手で，貧しいもの弱いものを救う手だてが巧妙に仕掛けられている。（表5）

オリーブ油は献げ物として小麦粉と共に用いられ，上から注ぎかけたり（レビ記2・14～16，2・1），混ぜたりして（レビ記2・5～7）用いる。これを燃やして煙にして用いることもある。（レビ記2・14～16）

バターは乳から絞る（箴言30・33）とある。

バビロンの王は，ユダの王ヒゼキヤが病気と聞いて見舞いの使者たちに贈り物を持たせた。ヒゼキヤは使者たちを歓迎し，王宮，国中の銀，金，香料，上等の油など宝物庫のすべて，武器庫，また倉庫にある一切のものを使者たちに見せた。（列王記20・12～13）上等の油という表現がある。

6　乳・凝乳・チーズ

乳・凝乳・チーズについては以下に述べる。（表6参照）

乳

乳はヘブライ語でハーラーブという。当時の人々は冷蔵保存技術を持たなかったため，搾った乳は腐りやすく，いながらにして固まったり変質したであろう。牛，羊，山羊などの乳が用いられたが，（申命記32・14，箴言27・27）らくだの乳の記述はない。

シセラが彼女に「喉が渇いた。水を少し飲ませてくれ」と言うので，彼女は革袋を開けてミルクを飲ませ彼を庇った。（士師記4・19）乳は山羊の革袋（水やワインも入れる）に入れてあった。これはイスラエル軍とカナン軍との戦いのさなか天幕に逃れ込んできたシセラ（カナン軍）を遊牧民の女が助けかばう状況を描いている。

乳は料理にも用いられた。煮物をするときに，子山羊をその母の乳で煮てはならないと注意を促している。（出エジプト記23・19）

乳は穀物，ぶどう酒についで大切な食べ物とされていた。すなわちイザヤ書「御言葉の力」の章には

渇きをおぼえる者は皆水のところに来るがよい。
銀を持たない者も来るがよい。
穀物を求めて，食べよ。
来て，銀を払うことなく穀物を求め
価を払うことなく，ぶどう酒と乳を得よ。

（イザヤ書55・1）

凝乳・バター・チーズ・乳脂

凝乳・バター・チーズ・乳脂のヘブライ語はヘムラ

表4

マ　ナ	マナ	出エジプト記16・3	エジプトの国では肉のたくさん入った鍋の前に座り，パンを腹一杯に食べたられたのに。
	マナ	出エジプト記16・3	主はモーセに仰せになった。あなたたちは夕暮れには肉を食べ，朝にはパンを食べて満腹する。
	マナ	出エジプト記16・15	これこそ，主があなたたちに食物として与えられたパンである。 エコンドロの種に似て白く，蜜の入ったウェーハウスのような味である。
	民の不満	民数記11・7～9	エコンドロの種のようで，一見，琥珀の類のようであった。民は歩き回って拾い集め，臼で粉にひくか，鉢ですりつぶし，鍋で煮て，菓子にした。こくのあるクリームのような味であった。

表5　油

オリーブ油 穀物の献げ物	レビ記2・1	上等の小麦粉を献げ物にしなさい。 奉納者がこれにオリーブ油を注ぎ更に乳香を載せる。
	レビ記2・5～6	献げ物を鉄板で焼いて穀物の献げ物とする場合は，酵母を使わずに上等の小麦粉にオリーブ油を混ぜ，それをいくつかの塊に分け，その上にオリーブ油を注ぐ。
	レビ記2・7	献げ物を平鍋で蒸して穀物の献げ物とする場合には，上等の小麦粉にオリーブ油を混ぜて作る。
	レビ記2・14～16	初穂の献げ物をささげる場合，麦の初穂を火で炒って挽き割にしたものにオリーブ油を注ぎ，乳香を注ぎ，司祭はこの1部と乳香全部をしるしとして燃やして煙りにする。
	申命記24・20	オリーブの実を打ち落とすときには，後で枝をくまなく探してはならない。

表6　乳　凝乳

雌山羊の乳	箴言	箴言 27・27	雌山羊の乳はあなたのパン，一家のパンとなり，あなたに仕える少女らを養う。
凝乳・乳	イサクの誕生の予告	創世記 18・7	アブラハムは，凝乳，乳，出来立ての子牛の料理などを運び，彼らの前に並べた。
	モーセの歌	申命記 32・14	かれらは牛の凝乳，山羊の乳を与えられ，…
	デボラの歌	士師記 5・25	ヤエルはミルクを与えた。貴人にふさわしい器で凝乳を差し出した。
凝乳	インマヌエル預言	イザヤ書 8・15	その名をインマヌエルと呼ぶ。その子が災いを退け，幸いを運ぶことを知るようになるまで，その子は凝乳と蜂蜜を食べ物とする。
	大いなる荒廃	イザヤ書 7・22	荒廃が起こって人は子牛 1 頭，羊 2 匹の命を救うのみ。しかし，それらは乳を豊かに出すようになり，人は凝乳を食べることができる。この地に残った者は皆，凝乳と蜂蜜を食べる。
バター	箴言	箴言 30・83	乳を絞るとバターが出てくる。鼻を絞ると血が出てくる。怒りを絞ると争いが出てくる。
チーズ	ダビデとゴリアト	サムエル記上 17・18	チーズ 10 個は千人隊の長に渡しなさい。兄さんたちの安否を確かめ，そのしるしをもらってきなさい。
	会戦の準備	サムエル記下 17・28～29	小麦，大麦，麦粉，炒り麦，蜂蜜，凝乳，羊，チーズを食糧としてダビデに差し出した。兵士が荒れ野で飢え，疲れ，渇いているに違いないと思ったからである。
	ヨブ記	ヨブ記 10・10	あなたはわたしを乳のように注ぎだし，チーズのように固め
乳脂	ヨブ記	ヨブ記 20・17	彼は蜂蜜と乳脂の流れる川のその流れを見ることはない。
	ヨブ記	ヨブ記 29・6	乳脂はそれで足が洗えるほど豊かでわたしのためにはオリーブ油が岩からすら流れ出た。

凝乳，バター，チーズと異なる訳語になっているが，元のヘブライ語はすべて［ヘムアー］であり，butter milk の意である。乳はヘブライ語で［ハーラーブ］で milk である。本来同じヘブライ語がこのように異なる訳語で表現されているのは，おそらく文脈の前後関係から乳の凝固の程度や状態の微妙な違いを表現しているのではないかと考える。実際にどのような食べ物であったかはわからないが，バター，さまざまな硬さのチーズ，ヨーグルト様の curd 状のものなどであったであろう。

ーといい，butter milk と解釈される。語源が同じにもかかわらず，さまざまな日本語に訳されているのは，おそらく次のような理由からであろう。

革袋に乳を入れて揺すると，その衝撃によってこれまで乳の中に細かい粒子で分散していた脂肪が寄り集まって固まってくる。この脂肪の凝集の程度が低い段階はいわゆるクリーム状で水分の方が多い。しかし，脂肪の濃度が濃くなるにつれて高度に凝集してバターになる。このバターを取り除くとその後に液体が残る。

この液体の中には，残りの脂肪，たんぱく質，糖，ビタミン，ミネラル類などの栄養分やおいしさが残っている。これを放置しておくと，乳酸菌により発酵が起こり，乳酸ができヨーグルト状に凝固する。同時にレンネット（牛の第 4 胃から分泌されるたん白分解酵素）という酵素が作用すると，たんぱく質は安定性を失って凝固する。つまり，乳酸菌，レンネットなどの酵素作用で凝集して固まり Curd といわれるものになる。チーズとヨーグルトは天然に存在する有用な酵素の助けを借りてたん白質が凝集するわけである。そのときの反応の強弱，経過時間，処理方法によって凝集物の硬さや味の違いが起こる。

現在流通しているこうした商品を水分含有量〈（　）内は水分含有率〉でざっと比較してみると，バター（15～16%），生クリーム（20～35%）チーズ（35～40%，柔らかいチーズ・カテージ 70%），ヨーグルト（80% 前後）となり，水分の多少で硬さや風味に違いがみられる。チーズは，水分含有量を差し引くと残りは主にたんぱく質と脂肪で味は濃厚でおいしい。そのために，醍醐味という言葉がチーズから生まれたという。「乾いたチーズをとくに乾酪とよび，ヘブライ語でゲビーナという。これは，できあがったチーズを日干しにして作るようである。」（6, p. 347）

戦場の兄たちを気づかって千人隊の長に 10 個のチーズを届けて手渡している。（サムエル記上 17・18）

当時の実物がどのようなものであったかはわからないが，乳の種類，性質，用途（たとえばサムエル記にみられるように戦場に携帯するにはコンパクトで保存性の高い固いチーズが必要だが，逆にすぐ食べるならば柔らかいものでよい）によってさまざまな工夫がされたにちがいない。

アブラハムが天幕（移動式の神殿：テント）の入り口に座っていると，旅人（神の御使い）が 3 人現れた。アブラハムは「お客様，よろしければなにか召し上がる物を作りますので，ひと休みして疲れを癒やしてからお出かけください。」と言った。客人が「ではお言葉どおりにしましょう」と答えたので，アブラハムは凝乳，乳，出来立ての子牛の料理を運んだ。凝乳と乳は子牛の料理より先に書かれている。（創世記 18・7）おいしいのもは真っ先に出す。今日でいう前

菜，オードブル的なものであろうか。

また，イザヤ書の「インマニエルの預言」では「生まれてくるであろう神の子（後のイエスキリスト生誕を指す）。その子は，凝乳と蜂蜜を食べ物とする。」と書かれている。子育て，とくに大切な神の子の子育てにまず凝乳が上げられているのは興味深い。相当上等な食べ物でありまた栄養分に富んだ消化の良い食べ物であったことが推測される。

7　肉　類

前述のように，エデンの園で神は人間に菜食主義を示した。しかし，人間は肉食をする。なぜか。肉を食べることが本能的な欲望であったため，菜食主義は貫けなかったであろうと言う説がある。(7, p. 75)（表7参照）

預言者イザヤは最晩年，神の国の平和について次のように語っている。

牛も熊も共に草をはみ
その子らは共に伏し
獅子も牛もひとしく干し草を食らう
（イザヤ書 11・7）

と言う。

すべての生き物が草食し，互いに危害を加えず，動物も人間も相手を肉食しないエデンの平和な姿が描かれている。

身命記では次のように条件をつけて（イタリックの部分）肉食を許している。「*神が与える祝福に従って*，欲しいだけ獣を屠り，その肉を食べることができる。」（申命記 12・15）*神があなたの領土を広げるとき，肉が食べたいと言うなら*，欲しいだけ肉を食べることができる。（申命記 12・20）「*肉が食べたいと言うなら*」の解釈は，その時“あなたが肉を食べたい”と考えて，あなたに肉を食べたいという望みが起こったならあなたは自分の望みどおり肉を食べなさい。(8, p. 326) また別の解釈は，異常なまでに欲っしないかぎり，肉を食べるべきでない。(7, p. 75)

a　牛

年老いたイサクは猟の獲物が好物だった。そこで狩りが得意な長男のエサウに，「わたしは年とったのでいつ死ぬかわからない。獲物を取ってきて，わたしの好きな料理を作り，ここに持ってきて欲しい」と頼んだ。（創世記 25・3～4，27～34）ここでは猟がでてくる。狩猟が巧みな人がいて，狩猟が行われていた。

アブラハムの前に旅の3人（神の御使い）が現れ，イサクの誕生を予告した。アブラハムは「お客様，よろしければなにか召し上がる物を作りますので，ひと休みして疲れを癒やしてからお出かけください。」客人が「ではお言葉どおりにしましょう」と答えると，アブラハムは牛の群の所に走っていき，柔らかくておいしそうな子牛を選び，召使いに渡し，急いで料理させた。（創世記 18・7）とくに子羊は柔らかくておいしいと述べられている。最上のもてなしであろう。

また，牛は神への献げ物の筆頭であった。（レビ記 1・2）一方，戦利品でもあった。（サムエル記上 14・32）

古代イスラエルの庶民の生活においては，牛を屠って食べるような機会はめったになかった。年に一回家の祭りのような特別な機会に犠牲の肉が食されたのである。（サムエル記 1・4）(3, p. 210)

b　羊

たとえば，①子羊は主の過越し（出エジプト記 11・8～9），②羊は過越祭（出エジプト記 12・46），③雄羊は祭司を任命するときの儀式（出エジプト記 29・31）で食べられている。料理法が決められていて，①は焼くが，煮たり生で食べてはいけない。③は煮る。それも聖なる場所で煮ることと決められている。

また食べる人が決められていて，③は聖とされた肉なので，祭司以外の一般人は食べてはならない。

食べる場所も決められていて，②は1匹の羊は1軒の家で食べ，肉の一部でも家の外へ持ち出してはならない。

残った肉は，翌日焼き捨てる（③の場合）なども定められている。（以上出エジプト記 11・8～9，12・48，29・31）

羊の肉は戦利品の筆頭に書かれている。（サムエル記上 14・32）

c　子山羊

父イサクが年取っていつ死ぬかわからないというとき，父のもとへ母リベカが肥えた子山羊を料理して息子ヤコブに運ばせた。（創世記 27・8～10）

子山羊をその母の乳で煮てはならない（出エジプト記 34・26）ということおよび子山羊を乳やクリームで煮て多産の女神アシェラにささげるというのは，多産を求めた異教の祭儀であり，これに染まるのを旧約聖書は禁じ，日常生活から異教の影響を排除することを目指している。(2, p. 323) 山羊のうち，子山羊を料理して食べているのは，柔らかいからであろう。

子山羊1匹，麦粉1エファの酵母を入れないパンを調え，肉を籠に入れ，肉汁を壺に入れ，テレピンの木の下にいる方に差し出した。（士師記 6・19）肉汁と

表7　肉類

肉・獲物	長子の特権	創世記 25・27～34	イサクはエサウを愛した。エサウは狩りの名人だったので獲物を取ってきてくれた。イサクは狩りの獲物が好物だったからである。
	リベカの計略	創世記 27・3～4	イサクは言った。年取ったのでいつ死ぬかわからない。狩りの道具を持って野に行き，獲物を取ってきて，わたしの好きなおいしい料理を作り，ここへ持ってきて欲しい。それを食べて，わたし自身の祝福をお前に与えたい。
子　牛	イサクの誕生の予告	創世記 18・7	アブラハムは牛の群の所に走って行き，柔らかくておいしそうな子牛を選び，召使いに渡し，急いで料理させた。
	ヨナタンの英雄的な行動	サムエル記上 14・32	兵士は戦利品に飛びかかり，羊，牛，子牛を捕らえて地面に屠り，血を含んだまま食べて神に罪を犯した。
牛	焼き尽くす献げ物	レビ記 1・2	牛，または羊を献げ物にしなさい。
		レビ記 6・21	贖罪の献げ物（雄牛，雌山羊，雄山羊）を煮るために用いた土鍋は打ち砕く。しかし，青銅の鍋で煮る場合は，鍋を磨き，水でゆすぐ。
小　羊	主の過越	出エジプト記 11・8,9	その夜肉を焼いて食べる。(8) 肉は生で食べたり煮て食てはならない。(9) 必ず，頭も四肢も内蔵も切り離さずに火で焼かねばならない。(9)
羊	過越祭の規定	出エジプト記 12・46	1匹の羊は1軒の家で食べ，肉の一部でも家から持ち出してはならない。
	ヨナタンの英雄的な行動	サムエル記上 14・32	兵士は戦利品に飛びかかり，羊，牛，子牛を捕らえて地面に屠り，血を含んだまま食べて神に罪を犯した。
雄　羊	祭司聖別の儀式	出エジプト記 29・31	雄羊を取り，その肉を聖なる場所で煮て料理する。翌日まで残ったら焼き捨てる。これは聖なるものなので一般の人は食べてはいけない。
	ナジル人の誓願	民数記 6・19	祭司は煮えた雄羊の肩をナジル人の手に置き主の御前に差し出す。
子山羊	リベカの計略	創世記 27・8～10	家畜の群れの所に行き，良く肥えた子山羊を2匹とって料理を作って父の所へ持っていった。
	エサウとの再会の準備	創世記 32・14	その夜，ヤコブはそこに野宿して，自分の持ち物の中から兄エサウに贈り物を選んだ。雌山羊200匹，雄山羊20匹，雌羊200匹，雄羊200匹，乳らくだ30頭，とその子供，雌牛40頭，雄牛10頭，雌ろば20頭，雄ろば10頭であった。
子鹿 かもしか 鹿 家禽	戒めの再授与	出エジプト記 34・26	子山羊をその母の乳で煮てはならない。
	ソロモンの統治とその繁栄	列王記 5・2	ソロモンはユーフラテス川からペリシテ人の地方，更にエジプトとの国境に至るまで，すべての国を支配した。国々は貢ぎ物を納めてかれに服従した。ソロモンの得た食糧は日に上等の小麦粉30コル，小麦粉60コル，肥えた牛10頭，牧場で飼育した牛20頭，羊100匹，その他，鹿，かもしか，子鹿，肥えた家禽であった。
いけにえ	サムエルの誕生	サムエル記上 1：3	いけにえをささげる日には，妻と息子と娘たちにそれぞれ与えた。
肉	祝福と契約	創世記 9・4	肉を食べる時は，血を抜いて食べねばならない。
肉，肉汁	ギデオン	士師記 6・19	ギデオンは行って，子山羊1匹，麦粉1エファの酵母を入れないパンを調え，肉を籠に，肉汁を壺に入れテレビンの木の下にいる方に差し出した。すると主の御使いが肉とパンを焼き尽くした。
家　畜	再びエジプトへ	創世記 43・16	ヨセフは言った。家畜を屠って料理を整えなさい。昼の食事を一緒するから。
肉	火の上の鍋	エゼキエル書 24・4～6	それに肉の切れを入れよ。腿や肩肉，すべて上質の肉切れを集め最上の骨で鍋を満たせ。また最上の羊を取り，その下に骨を積み重ねよ。これを十分に沸騰させ中の骨まで煮えるようにせよ。
	火の上の鍋	エゼキエル書 24・10～11	薪を積み重ね，火をつけよ。肉を煮込んで肉汁を作り，骨を焦がせ。鍋を空にして炭火をのせ熱して，青銅が赤くなるまで焼け。汚れがその中で溶け，錆がなくなるように。
	終わりの時についての幻	ダニエル書 10・3	ダニエルは3週間にわたる嘆きの祈りをしていた。その3週間は，一切の美食を遠ざけ，肉も酒も口にしなかった。
	ホレブに向かったエリヤ	列王記 19・21	エリシャはエリヤを残して帰ると，1軛の牛を取って屠り，牛の装具を燃やしてその肉を煮，人々に振る舞って食べさせた。
豚	清いものと汚れたものに関する規定	レビ記 11・7	いのししはひずめが分かれ，完全に割れているが，全く反芻しないから汚れた物である。これらの動物の肉は食べてはならない。
	清い動物と汚れた動物	申命記 14・8	いのししはひずめが分かれているが，反芻しないから汚れた物である。これらの動物の肉は食べてはならない。
	救いの約束	イザヤ書 65・4	墓場に座り，隠れたところで夜を過ごし，豚の肉を食べ，汚れた肉の汁を器に入れながら…

いうのは今日でいうスープであろうか。

ヤコブは兄エサウに贈り物をする。それは，羊400匹（雄200＋雌200匹），山羊220匹（雌200匹＋雄20匹），牛50頭（雌牛40＋雄牛10）である。（創世記32・14）

d　鹿・子鹿・かもしか

ソロモンはユーフラテス川からペリシテ人の地方，さらにエジプトの国境に至るまですべての国を支配した。国々は貢ぎ物を納めて彼に服従した。それは，上等な小麦粉，小麦粉，肥えた牛，牧場で飼育した牛20頭，羊100匹，鹿，かもしか，子鹿，肥えた家禽である。ここでは牛が2種類あげられていて，牧場で飼育した牛と肥えた牛である。（列王記5・2）

e　家　畜

ヨセフは言った。家畜を屠って料理を整えなさい。昼の食事を一緒にするから。（エゼキエル書24・4～6）

f　肉は美食・争いのもと

ダニエルは3週間にわたる嘆きの祈りをしていた。その3週間は一切の美食を避け，肉も酒も口にしなかった。（ダニエル書10・3）肉と酒は美食ということである。

肉の魅力は大きいのか肉は取り合いになり争うことが述べられている。（箴言17・1）

g　豚　肉

いのししは，ひずめが分かれ完全に割れているが，全く反芻しないから汚れた物である。これらの動物の肉は食べてはならない。（レビ記11・7，身命記14・8）豚はイノシシの子孫といわれているからこれは豚とみてよい。なぜ豚がことさら排除されるのか。豚は古代オリエントでは汚れたものとして祭儀には用いられていない。ただしペリシテ人は豚を食べていた証拠があるという。したがって，豚を嫌ったのはペリシテ人の祭儀的習慣への反発のためと考えられる。（2，p. 219）

豚の肉を食べ，汚れた汁を器に入れながら……（イザヤ書65・4）豚が鼻に金の輪を飾っている。美しい女に知性が欠けている。（箴言11・22）ともに豚は聖書のなかでさげすまれている。

「肉は命である血を含んだまま食べてはならない。」（創世記9・4，レビ記17・10，申命記12・16，12・23～27）肉を食べる時は，血を抜いて食べねばならない。

「血は水のように地面に注ぎださねばならない。」（身命記12・16）だから特別の屠殺法で血を抜いてから料理した。「生き物の命は血の中にある。」（レビ記17・11）生き物の命である血は神に属しているから，食べてはいけないと明記されている。

8　魚

「エジプトでは魚をただで食べていたし，きゅうりやメロン，葱や玉葱やニンニクが忘れられない。」とエジプトを後にして食べ物が不自由になったイスラエルの民はモーセに不平を言った。（民数記11・5）（表8参照）

天使ラファエルと息子トビアはある晩，チグリス川のほとりで夜明かしすることになった。トビアは足を洗おうとして川に下りていった。すると1匹の大きな魚が川から跳び上がりトビアの足を一呑みにしようとした。二人は魚を捕まえた。天使ラファエロが「魚を切り裂き，胆のうと心臓と肝臓は取り出して取って置きなさい。これらは薬として役立つからです」と言った。そのようにして魚の身は焼いて食べた。（トビト記〈旧約聖書続編〉6・1～5）ところで，これらの内蔵はどんな効き目があるのですかと天使に聞いた。魚の心臓と肝臓は悪魔や悪霊に取りつかれている男や女の前でいぶしなさい。そうすると悪霊どものどんな力も消えてしまう。胆のうは目に出来ている白い膜に塗り，その部分に息を吹きかけなさい。そうすれば目が良くなります。（トビト記6・7）

9　いなご

いなごの類，羽ながいなごの類，大いなごの類，小いなごの類は食べてもよい。（レビ記11・22）

10　うずら

イスラエルの民が出エジプトの道中でモーセに肉を食べさせろ，喉が渇いたと泣き言をいい不満をぶつけるので，神は突然，風を送り海の方から，うずらを呼び寄せ宿営の周りに降らせた。うずらはどんどん落ち

表8　魚

魚	モーセとホバブ	民数記11・5	エジプトでは魚をただで食べていた，
	魚の捕獲	トビト記6・5	ある晩，チグリス川で足を洗おうとして，1匹の魚を捕まえた。魚を切り裂き，胆のうと心臓と肝臓を取り出して取っておきなさい。これらは薬として役立つからです。身は焼いて食べた。

表 9　いなご

いなご	清いものと汚れたものに関する規定	レビ記 11・22	いなごの類，羽ながいなごの類，大いなごの類，小イナゴの類は食べてよい。

表 10　鳥

うずら	うずら	民数記 11・31	主のもとから風が来て，うずらを吹き寄せ終日終夜積もった。少ない者でも 10 ホメルは集めた。肉がまだ歯の間にあってかみ切らないうちに，神は民に怒りを発して激しい疫病で民を打たれた。
山鳩・家　鳩	焼き尽くす献げ物	レビ記 1・14	鳥を焼き尽くす献げ物として献げる場合には山鳩または家鳩を献げ物にする。

表 11　卵

卵	ヨブは答えた	ヨブ記 6・6	味のない物を塩もつけずに食べられようか。卵の白身に味があるか。

表 12　レンズ豆・そら豆

レンズ豆	長子の特権	創世記 25・34	ある日ヤコブが煮物をしていると，兄エサウはパンとレンズ豆を弟からもらって，その代わりに長子の権利を弟ヤコブに与えた。そしてエサウは飲み食いしたあげくに立ち去って行った。
そら豆	エルサレム包囲のしるし	エゼキエル書 4・9	あなたは小麦，大麦，そら豆，きび，裸麦を 1 つの器に入れ，パンを作りなさい。それを人糞の上で焼きなさい。

てきて吹き寄せ終日終夜積もった。肉がまだ歯の間のあって乾かないうちに神は民に怒りを発し，民を激しい疫病に打たれた。（民数記 11・31）（うずら：きじ科うずら属の鳥――(9, pp. 281～283)

貪欲で不満の多い民にたいする神の裁きである。(8, p. 262)（表 10 参照）

11　卵

味のない物を塩もつけずに食べられようか。卵の白身に味はあるか。（ヨブ記 6・6）（表 11 参照）

12　レンズ豆・そら豆

ある日ヤコブが煮物をしていると，兄エサウが戻ってきてパンとレンズ豆を食べさせてくれと頼んだ。弟はそれを兄に与え，その変わりに長子の権利を弟に譲り渡した。（創世記 25・34）

預言者エゼキエルは，神から幻を見せられ神の言葉を聞いた。町は包囲され人々の生活は極度の窮乏状況であった。人々は汚れた食べ物を食べた。6 種類の穀物が 1 つの器に混ぜられている。小麦，大麦，そら豆，ひら豆，きび，裸麦である。これを一つの器に入れてパンを作りなさい。390 日間それを食べなさい。（エゼキエル書 4・9～10）ひら豆とはレンズ豆のことである。サムエル記下 17・27～29 で「豆」が登場するが，「そら豆」と訳すのが正しいと指摘されている。(10, p. 101)

13　酒

普通のぶどう酒（ヘブライ語：Yayin）に加えて，強い酒，濃い酒，強い飲み物（ヘブライ語：Shekar），混ぜ合わせた酒（ヘブライ語：mesekh）などが登場する。また，新しいぶどう酒，泡立つ酒，ビール，甘い酒という表現もある。順次みていこう。（表 13 参照）

a　ぶどう酒

ぶどう畑でぶどうの手入れする人々の情景はあちこちにみられる。そして待ちに待った収穫の時がやってくる。「穀物の収穫の後にはぶどうの収穫が続き，ぶどうの収穫の後には種播が続いて，あなたたちは食べ物に飽き足り，国のうちで平穏に暮らす事ができる。」（レビ記 26・5）ぶどうは 7 月末から熟し始め実際の収穫は 9 月から始まり，10 月まで続く。(4, p. 189)

次々と違った時期に植物が実るということは，一見当たり前のように考えがちであるが，それを食べる側からみると，途切れなく収穫物を手にすることができ平穏な暮らしが約束されている。

その時に注意することとして，ぶどうを摘み尽くしてはならない，ぶどう畑に落ちた実を拾い集めてはならない。これは貧者や寄留者のために残しておかねばならないと定められている。（レビ記 19・9, 10）困った人々への博愛の精神が読みとれる。

摘んだぶどうは酒船に運ばれ，人々に踏まれる。皮ごと踏まれるので，皮に含まれる赤い色素で衣服が赤

表13　ぶどう酒

ぶどう酒（Yayin）	リベカの計略	創世記27・24	ヤコブが料理を父イサクに差しだすと，イサクは食べぶどう酒をつぐとすぐそれを飲んだ。
	リベカの計画	創世記27・28	どうか神が穀物とぶどう酒をお前に与えてくださるようにと父イサクがヤコブのために祈った。
	再びエジプトへ	創世記43・34	一同はぶどう酒を飲み，ヨセフと共に酒宴を楽しんだ。
	日ごとの献げ物	出エジプト記29・41	ぶどう酒を献げる
	聖なる者となれ	レビ記19・9～10	ぶどうを収穫するときには，摘み尽くしてはならない。ぶどう畑に落ちた実を拾い集めてはならない。 これは貧しい者や寄留者のために残しておかねばならない。
	主の報復	イザヤ書63・2～3	なぜあなたの装いは赤く染まり，衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。 わたしはひとりで酒ぶねを踏んで液汁にしている様子である
	サムソン	士師記13・4	あなたは身ごもって男の子を産むであろう。今後，ぶどう酒や強い酒を飲まず，汚れた物も一切食べないように気をつけなさい。
	ダビデとツィバ	サムエル記下16・1	彼は2頭の鞍を置いたろばに，200個のパン，100房の干しぶどう，100個の夏の果物，ぶどう酒1袋を積んでいた。ツィバは，ろばは王様のご家族の乗用に，パンと夏の果物は従者の食用に，ぶどう酒は荒れ野で疲れた者の飲料に持参しました，と答えた。
	麻の帯とぶどう酒のかめ	エレミヤ書13・12～14	預言者エレミヤに神の言葉が聞こえた。わたしはぶどう酒をかめに満たし，エルサレムの住民を酔わせ砕き滅ぼす。神をうとんじたからである。
	サムソン	士師記5・13～14	彼女はぶどう酒を作るぶどうの木からでるものは一切食べてはならない
泡立つ（Hemer）	壁に字を書く指の幻	ダニエル書5・1	貴族を招いて大宴会を開きみんなで酒を飲んだ。
		ダニエル書5・2, 3	神殿から奪ってきた金銀の祭具で王，貴族，後官の女たちが酒を飲んだ。
	エズラの帰還	エズラ記7・22	銀は百バトまで，小麦は百コルまで，ぶどう酒は百バトまで油は百バトまで，塩は制限なく与えられる。
	ダレイオス王の返事	エズラ記6・9	天にいます神に焼き尽くす捧げ物として小麦…ぶどう酒を与えなければならない。
新しいぶどう酒（Asis）	父の諭し	箴言3・10	主は搾り場に新しい酒を溢れさせて下さる。
	主の告発	ミカ書6・15	新しい酒を搾ってその酒を飲むことはない。
	モーセの祝福	申命記33・28	新しいぶどう酒に富み，天が露を滴らせる土地に
	センナケリブの攻撃	イザヤ書36・17	わたしは来て新しいぶどう酒の地，パンとぶどう畑の地に連れて行く。
	新しい神殿の栄光と祝福	ハガイ書2・16	ぶどう酒を汲もうと酒ぶねに来ても，20バトしか得なかった。
圧縮されて流れ出るぶどう酒（Yekebh）	ヨブ記	ヨブ記24・11	絞り場でぶどうを踏みながらも自らはその恩恵に浴さずに渇く。
	諸国民に対する預言	エレミヤ書48・33	わたしは酒ぶねからぶどう酒を断った。
	アラム軍の敗退	列王記下6・27	麦打ち場にあるものによってか，それとも酒ぶねによってか。
		箴言3・10	そうすれば主はあなたの倉に穀物を満たし，搾り場に新しい酒を溢れさせる。
	三大祝祭日	申命記16・13	酒ぶねからの収穫が済んだとき，あなたは仮庵祭をしなさい。
泡立つ酒	モーセの歌	申命記32・14	かれらはぶどう酒，泡立つ酒を飲んだ。
	ペトエルの子ヨエルに臨んだ主の言葉	ヨエル書1・5	酒に溺れる者よ，皆泣き叫べ。泡立つ酒はお前たちの口から断たれる。
古いぶどう酒	神の祝福	申命記28・51	あなたのために穀物も新しいぶどう酒もなに一つ残さず，ついにあなたを滅ぼす
	主の告発	ホセア書4・11	ぶどう酒と新しい酒は心を奪う。
	神の驚くべき御業	イザヤ書25・6	祝宴を開き民に良い肉と古い酒を供された。それはえり抜きのぶどう酒。
強い酒（Shekar）	祭司ナダブとアビブの違反	レビ記10・9	臨在の幕屋に入るときは，ぶどう酒や強い酒を飲むな。
	サムソン	士師記13・4	あなたは身ごもって男の子を産むであろう。今後，ぶどう酒や強い酒を飲まず，汚れた物も一切食べないように気をつけなさい。
	箴言	箴言20・1	酒は不遜，強い酒は騒ぎ。酔うものが知恵を得ることはない。
	箴言	箴言31・6	強い酒に没落した者に酒は苦い思いを抱く人に与えよ。
		民数記28・7	聖所で主にたいするぶどう酒の献げ物として酒を注ぐ

強い酒（Shekar）	神を畏れぬ者	イザヤ書 56・12	さあ，酒を手に入れよう。強い酒を浴びるように飲もう。
	レムエルの言葉	箴言 31・6	強い酒は没落した者に，酒は苦い思いを抱く者に与えよ。
強い飲み物（Shekar）濃い酒（Shekar）	サムソン	士師記 13・4, 7	今後ぶどう酒や強い飲み物を飲まず汚れた食べ物も一切食べません
	酔いしれる指導者	イザヤ書 29・9	酔ってはいるがぶどう酒のゆえではない。よろめいているが濃い酒のせいではない。
	ナジル人の誓願	民数記 6・3～4	ナジル人（特別に神に誓願を立てた者）ならば，ぶどう酒，濃いぶどう酒も断ち，ぶどう酒の酢も，濃い酒の酢も生のぶどうも干したぶどうも一切飲んではならない。
	ぶどう畑の歌	イザヤ書 5・11	災いだ，朝早くから濃い酒をあおり，夜更けまで酒に身を焼かれる者は。
	ユダの混乱	ミカ書 2・11	ぶどう酒と濃い酒を飲みながら預言を聞かせようという者はたわごとを言う者とされる。
	酒に酔った祭司と預言者	イザヤ書 28・7	かれらもまたぶどう酒を飲んでよろめき濃い酒のゆえに迷う。
	収穫の十分の一に関する規定	申命記 14・24	ぶどう酒，濃い酒その他なんでも必要なものを買い，あなたの神，主の御前で家族と共に食べ喜び祝いなさい。
甘い酒	神の世界審判	イザヤ書 24・9	酒を飲んで歌う人々もいなくなり，甘い酒も飲んでみれば苦い。
混ぜ合わせた酒（Mesekh）	箴言	箴言 23・30	不幸な者は誰か。混ぜ合わせた酒に深入りする者。混ぜ合わせた酒に深入りする者。
	救いの約束	イザヤ書 65・11	運命の神に混ぜ合わせた酒を注ぐ者よ。
	賛歌	詩編 75・9	すでに酒は主の御前にあり，調合された酒が泡立っています，主はそれを注がれます。この地に逆らう者は皆，それを飲みおりまで飲み干すでしょう。
ぶどう液	ナジル人の誓願	民数記 6・3	ナジル人である間は，ぶどう液は一切飲んではならない。
大酒飲み	箴言	箴言 23・20～21	大酒を飲むな。身を持ち崩すな。大酒を飲み，身を持ち崩す者は貧乏になる。
	主の慈しみ	ヨエル書 2・9	主は言われた。わたしは穀物とぶどうとオリーブをお前たちに送り，飽き足らせよう。

く染まるようすが記されている。（イザヤ書 63・2, 3）酒船からその液汁が流れ込む受容槽があり（圧縮装置），さらに下方に別の受容槽があり，最後に瓶または革袋に貯蔵する。（エレミヤ書 13・12～14）

こうした様子をみながら人々は神の恵みに感謝するようすが書かれている。新しいぶどう酒は少なくとも40日しないと飲むことはできない。（ダニエル書 5・1～3），（4, p. 1189）

ぶどう酒は神への献げ物であった。（出エジプト記 29・41，民数記 15・5～10）神の恵みに感謝する象徴的な食べ物の一つである。

父イサクが息子ヤコブに祝福を与える祈りを捧げたときの内容は，「どうか神が息子に穀物とぶどう酒を与えてくださるように」であり，穀物とぶどう酒が望まれているのは興味深い。

ぶどう酒は手軽に飲まれていた。料理にはぶどう酒がセットになって運ばれている。とくに宴会で一同はぶどう酒を飲み，ヨセフと共に酒宴を楽しんだ，とある。（創世記 43・34）また年老いたヤコブは息子が運んできた料理を食べ，ぶどう酒を注ぐとぶどう酒を飲んでいる。（創世記 27・24）

一方，旅のダビデを気づかって旅の途中に出迎えた従者が4つの食べ物を差し入れするが，その1つがぶどう酒であり，ぶどう酒は荒れ野で疲れた者の飲料になった。（サムエル記下 16・1）水が少ないので，液体として喉の乾きを癒やす大切な飲料であつた。

ぶどう酒の発酵がすすんでいくと，酸っぱいぶどう酒となる。それは水で薄めて勤労者の飲み物になっていたという。（4, p. 1190）

ある4人家族が，ベツレヘムから飢饉のために肥沃なモアブの土地に移り住み，そこで息子2人は結婚した。その妻の一人がルツという女性である。ところがやがて男は3人とも死んでしまった。そこで姑（ナオミ）とルツは再びベツレヘムに戻ってきた。そしてちょうど麦の刈り入れの時期だったので，畑の落ち穂を拾わせてもらってそれを食べて暮らした。食事のとき，亡き夫の親戚（ボアズ）が「こちらに来て，パンを少し食べなさい，一切れずつ酢に浸して。」と言った。パンが乾いていて食べにくいので酸っぱいぶどう酒に浸して食べた。酢と書かれているが，酸っぱいぶどう酒をさすものと考えられる。

酒は苦い思いを抱く者に与えよという。（箴言 31・1）痛手を受けた者が心の慰めに飲むことを許している。酒は必要な飲み物として積極的に評価されている。

しかし，ぶどう酒と強い酒は飲むなと禁止されている場面が多い。とくに，幕屋（神を祭ってある聖所）に入る時である。死を招かないためであると強く警告

している。（レビ記10・9）

また，母が身ごもって子を生むであろう時である。神の御使いが現れて，気をつけるように忠告している。（士師記13・4）

箴言には大酒を飲むなという。（箴言23・20～21）ぶどう酒や強い酒を飲むなという。また不幸な者は誰か，と問いかけて，混ぜあわせた酒に深入りする者であると言う。（箴言23・20～21）

預言者エレミヤに神の言葉が聞こえた。「わたし（神）はぶどう酒を瓶に満たす。そしてエルサレムの住民を酔わせる。そして人々を砕き，すべて滅ぼす。」（エレミヤ書13・12～14）傲慢になって神に従わなかったからである。神はイスラエルの民を酒で酔わせて滅ぼすと宣言している。神を疎んじたからである。

預言者ヨエルは，最後の審判の日には恐怖をみることになるから罪を悔い改めよと説く。そうすれば救いが訪れると述べている。救いの日には，ユダの山々にはぶどう酒が滴り，もろもろの丘には乳が流れ，ユダのすべての谷には水が流れる。泉が主の神殿から湧き出てシティムの川を潤す。（ヨエル書4・18）

新しいぶどう酒とは収穫した年のものをさす。この新しいぶどう酒は，発酵途中に威勢のよい泡がぶくぶくとでてくる。また注ぐときにも泡がでる。そこで泡立つワインと言われる。一方，貯蔵したぶどう酒は，年を重ねているのでビンの底に澱（おり）ができオールドワインをいう。

古い酒については次のような記述がある。

「万軍の主はこの山で祝宴を開き，全ての民に良い肉と古い酒を供される。それは脂肪に富む良い肉とえり抜きの酒。」（イザヤ書25・6）

モアブ（町の名前）は幼い時から平穏に過ごして
捕囚となったことはない。
古い酒のように静かに寝かされ
器から器へと注ぎ変えられることなく
その風味は失われず
香りも変わることがなかった。
それゆえ，見よ，と主は言われる。
（エレミヤ書48・11）

モアブはこれまで古い酒のように平穏無事に暮らしてきたが，滅びて栄光の杖は折られた。（エレミヤ書48・12～17）

熟成がすすんだ古いぶどう酒は，乳酸菌によってワイン中のリンゴ酸が乳酸と炭酸ガスに分解されるので酸味が低下しておいしくなる。しかし，放置していると酢酸菌がアルコールを酸化して酢にしてしまう。ワインは酢になるというわけである。

また，器から器に移し替えると，そのつど，有害菌に汚染されて変質し易い。そっとねかせておいたワインの風味と香りの良さを比喩的に述べている。

b　強い酒

強い酒，濃い酒はぶどう酒と並列して登場する。どんな飲みものであろう。

摘みとったぶどうの皮には野生の酵母がついているので，足で踏んで汁にすると発酵を始める。ぶどうに含まれている糖を酵母が食べて増殖していく。そしてアルコールと炭酸ガスがでてくる。糖の含量が多いほどアルコールは多くできる。もちろん泡も多くでる。強い酒はこうしてできあがる。またぶどう酒には酒石酸，リンゴ酸などの有機酸が多く含まれている。そのためぶどう液は強い酸性を示す。この酸が腐敗菌の繁殖を防いでいる。

強い酒，濃い酒，強い飲み物はすべてヘブライ語ではシェーカー（Shekar）である。しかし，この言葉は英文の聖書（11）では，アルコール，ビール，リッカーなどとさまざまに訳されている。

強い酒について聖書は次のようにいう。

酒は不遜，強い酒は騒ぎであるという。度を過ぎて飲み過ぎること，朝早くから飲むこと，酔うこと，溺れること，浴びるように飲むこと，身をもち崩すこと，酔って聖所に入ることを戒めている。強い酒は酒好きにはとっては抑えがたい誘惑であるから節度を持って飲むことを教えている。

強い酒はどきどきワインと並列して述べられているので，ワインとは違う酒であることが示唆される。

アルコール，リッカーという表現から，蒸留が行われていたらしい。

「強い酒としてエジプトの壁画に残っているものにヤシ酒がある。「これはナツメヤシの果実を水に浸け搾ってジュースを取り，置いておくと果実に付着していた酵母で自然発酵が起こる。この上澄みに残りのかすを漉した液を加え，さらに濾過して瓶に蓄え，しばしば蜂蜜を加えより一層強い酒を作る」という。（12, p. 176）

強い酒には泡立つ酒という記述がある。（申命記32・14）これは，「ぶどう汁に蜂蜜を混ぜていたため，（糖含量が多いので）よく発酵し，そのためよく泡立つた。そこでこのような呼び方をする。ビールではない。果皮や茎も一緒に発酵させてどぶろく状のワインを飲んだが，次第にそれを布でこして果皮や茎を取り

除いて濾過する製法が確立されるようになる。さらに濾過を繰り返し，透明で良質のワインが登場するようになるが，これは後代になってからである。(2, p. 364)

「酒を調理し，食卓を整え……」(箴言9・2) 酒を調理するとは調合することで，ぶどう酒に香辛料や蜂蜜を混ぜることをいう。(2, p. 198)

強い酒を造ろうとしてさまざまな試みが行われたことは興味ぶかい。

c　ビール

泡立つというもう一つの飲み物がビールである。11世紀半ばロシヤ最初の聖書の翻訳本「オストロミール福音書」には，ギリシャ語のスィケラがスラブ語で「ビール」を意味する言葉オルとして訳されているという。(12, p. 142)

その製法は，「収穫した麦を水に浸けて発芽させ，乾燥させて麦粉をつくる。これを練って焼くと麦芽パンになる。これを水にもどすと，発酵により糖が少量のアルコールと炭酸ガスをつくる。古代エジプトで，ピラミッド建設に従事した奴隷たちの乾きを癒やしたのはこの一種独得のビールであった」という。(12, pp. 172～173 1995) これはアルコール度の低いものらしい。(13, p. 5)

ぶどう以外の原料を用いたワイン，リキュールについては表13に示した。

14　果実・菓子

神がイスラエルの民に与えると約束したよい土地でとれる食べ物として6つあげられているが，その半分が果物である。(申命記8・8) 果物は食べ物として重要視されていた。(表14参照)

家を建てて住み，園に果樹を植えてその実を食べなさい。(エレミヤ書29・4) とあるように，果樹が植えられその実が重要な食糧源であった。その順番は，ぶどう，いちじく，ざくろである。(身命記8・8) また，アッシリヤの王がユダに攻め入ったとき次のように言う。「わたしと和を結び，降伏せよ。そうすればお前たちは皆，自分のぶどうといちじくの実を食べ，

表14　果実・菓子

ぶどう	人の畑のもの	申命記23・25～26	隣人のぶどう畑に入る時は，思う存分満足するまで，ぶどうを食べてもよいが，籠に入れてはならない。ぶどうの取り入れをする時は，後で摘み尽くしてはならない。それは寄留者，孤児，寡婦のものとしなさい。
いちじく	神の賜る良い土地	申命記8・8	小麦，大麦，ぶどう，いちじく，ざくろが実る土地，オリーブの木と蜜のある土地である。
	センナケリブの攻撃	列王記下18・31	わたしと和を結び，降伏せよ。そうすればお前たちは皆，自分のぶどうといちじくを食べ，自分の井戸の水を飲む事ができる。
	良いいちじくと悪いいちじく	エレミヤ24・2	1つの籠には初なりのいちじくのような，非常に良いいちじくがあり，もう一つの籠には，非常に悪くて食べられないいちじくが入っていた。
干しいちじく	サムエルの死	サムエル上25・18	アイガルは急いで，パン200個，ぶどう酒の革袋2つ，料理された羊5匹炒り麦5セア，干しぶどう100房，干いちじくの菓子200取り，何頭かの
	ヒゼキヤの病気	列王記下20・6	イザヤが干しいちじくを取ってくるようにと言うので，人々がそれを取ってきて患部に当てると，ヒゼキアは回復した。
ざくろ	神の賜る良い土地	申命記8・8	小麦，大麦，ぶどう，いちじく，ざくろが実る土地，オリーブの木と蜜のある土地である。
夏の果物	エルサレムの陥落と捕囚	エレミヤ52・22	柱頭の周りにはざくろの模様があって…
	アマレク人にたいするダビデの出撃	サムエル上30・11～12	兵士たちは野原で1人のエジプト人を見つけ，ダビデのもとに連れてきた。パンと水をのませ更に干しいちじく1かたまりと干しぶどう2房を与えて食べさせると元気を取り戻した。
	ダビデとツィバ	サムエル下16・1	彼は2頭の鞍を置いたろばに，200個のパン，100房の干しぶどう，100個の夏の果物，ぶどう酒1袋を積んでいた。ツィバは，ろばは王様のご家族の乗用に，パンと夏の果物は従者の食用に，ぶどう酒は荒れ野で疲れた者の飲料に持参しました，と答えた。
	ゲダルヤの働き	エレミヤ書40・10	あなたたちはぶどう酒，夏の果物，油などを貯蔵し，自分たちの確保している町々にとどまりなさい。
果物	命の水	エゼキエル47・12	川のほとり，その岸には，こちら側にもあちら側にも，あらゆる果樹が大きくなり，葉は枯れず，果実は絶えることなく，月ごとに実をつける。水が聖所から流れ出るからである。その果実は食用となり，葉は薬用…
なつめやしりんご果樹	ヨエルに臨んだ主の言葉	ヨエル書1・12	いちじくの木は衰え，ざくろも，なつめやしも，リンゴも，野の木はすべて実をつけることもなく人々の楽しみは枯れ尽くした。
	エレミヤの手紙	エレミヤ29・4	家を建てて住み，園に果樹を植えてその実を食べなさい。
菓子	アムノンとタマル	サムエル記下13・5	目の前で菓子を作らせます。粉をこねて焼く。

自分の井戸の水を飲むことができる。」（列王記下18・31）

a　ぶどう・干しぶどう

ぶどうの実は果物として食べられていた。「隣人のぶどう畑に入るときは，思う存分満足するまで食べてもよいが，籠に入れてはならない。またぶどうの取り入れをするときは，後で摘み尽くしてはならない。それは寄留者，孤児，寡婦のものとしなさい」（申命記24・18）ここにも博愛の精神，ぶどう畑でのふるまいの基本的マナーが説かれている。

ダビデは，全イスラエルの王であったが彼の息子アブサロムの反乱により，宮廷を後にして逃亡することになる。その途中，かつての僕ツィバが現れ王の旅の道中に必要な食べ物の援助をする。ツィバは200個のパン，100房の干しぶどう，100個の夏の果物，ぶどう酒1袋をろばに積んで，従者の食用のために持参しましたと王に言った。（サムエル記下16・1）長旅用に日持ちのよい干したぶどうが登場する。干しぶどうは房のまま乾燥されたことがわかる。

b　いちじく

預言者ヨエルは国民全体の悔い改めを求め，そうしなければ国は壊滅的な状態になることを説く。そしていなごによる荒廃を預言する。いなごによって小麦と大麦の畑の実りは失われ，ぶどうの木は枯れ尽くし，いちじくの木は衰え，ざくろも，なつめやしも，リンゴも，野の木はすべて実をつけることもなく人々の楽しみは枯れ尽くした。（ヨエル書11～12）いなごによって果実まで食い尽くされると言う。

兵士たちは野原で1人のエジプト人を見つけ，ダビデのもとに連れてきた。パンを与えて食べさせ，水を飲ませ，さらに干しいちじく一かたまりと干しぶどう二房を与えて食べさせると，元気を取り戻した。（サムエル記上30・11～12）パン，水それに干果実が3つセットになって元気を回復させた。

c　夏の果物

100個の夏の果物は他の聖書では，夏いちじく100連（4）をろばに載せて王様の従者に持参します。（サムエル記下16・1）となっている。（8, p. 557）

夏の果物を貯蔵し自分たちの確保している町にとどまりなさい。（エレミヤ書40・10）果物は干すなどの方法で保存し長期間食べるように工夫している。

d　ざくろ

神の贈る良い土地とは具体的にいえば，小麦，大麦，ぶどう，いちじく，ざくろが実る土地，オリーブの木と蜜のある土地である。（申命記8・8）3つの果物のうちにざくろが入っている。「柱頭の周りにはざくろの模様があって……」（エレミヤ書52・22）ざくろは多数実がなるので，豊饒の象徴とされたのだろうか。（3, p. 489）

e　リンゴ

リンゴは他の果物と並んで記述されている。（ヨエル書1・12）

リンゴには褒め言葉が多い。時宜にかなって語られる言葉は銀細工に付けられた金のリンゴのようである。（雅歌25・11）

若者の歌という項目の中で
若者たちの中にいるわたしの恋しい人は
森の中に立つリンゴの木
わたしはその木陰を慕って座り
甘い実を口にふくみました（雅歌2・3）
ぶどうのお菓子でわたしを養い
リンゴで力づけてください（雅歌2・5）

f　なつめやし

どのように食べられたかは書かれていないが，名前のみ上がっている。（ヨエル書1・12）

なつめやしの木に登り
甘い実の房をつかんでみたい。
わたしの願いは
ぶどうの房のようなあなたの乳房
りんごの香りのようなあなたの息
上手いぶどう酒のようなあなたの口

なつめやしの酒（date wine）はBC時代の古くからある酒であるという。なつめやしの完熟果実のシロップは約80～85ブリックの糖度であるが，アルコール発酵に好適な濃度は10～20ブリックほどだからかなり薄めてもさしつかえない。（14）

15　蜜

神は預言者イザヤに言われた。行って神を固く信じることが，神に固く支えられる道であると言いなさい。しかし，信じようとしないので，神が自らそのしるしを与えられた。イザヤはインマヌエル預言をした。すなわち一人の女性が身ごもって男の子を生み，その名をインマヌエルと呼ぶ。災いを避け，幸いを選ぶことを知るようになるまで，その男の子は凝乳と蜂蜜を食べるようにする。（イザヤ書7・3～15）貴重な食べ物としての象徴であろうか，あるいは離乳食のような消化の良い食べ物としての位置づけであろうか。（表15参照）

神の与える土地には，穀類2種類，果物3種類，オ

リーブの木そして蜜が加わる。蜜は以下のように蜂蜜という記載が多い。

蜂蜜がかれらにとっていかにおいしいものであるかが箴言でわかる。

「蜂蜜を見つけたら欲しいだけ食べるがよい。しかし，食べ過ぎて吐き出すことにならないように」（箴言 25・16）

「蜂蜜を食べ過ぎればうまさは失われる。名誉を追い求めれば，名誉は失われる」（箴言 25・27）このように蜂蜜は食べはじめると止まらない誘惑に満ちた食べ物の譬えとして登場している。

古代オリエントの酒で蜂蜜酒が最も古い酒であるという説は根強くあるという。（12, p. 176）「蜂蜜は 2 つの点で酒づくりにかかわっていたと思われる。1 つは糖分の添加，いま 1 つは酵母の補給源で，麦芽酒やワインでも蜂蜜は重要な添加物であった。」という。（12, p. 177）

16　ナッツ類

カナン地方は飢饉がひどくなるいっぽうであった。父イスラエル（ヤコブ）は息子たちにエジプトに再び食糧を買いに行きなさいと言う。息子たちと意見調整をしたのち，父イスラエルは息子たちに言った。「土地の名産を袋に入れて贈り物として持って行きなさい。乳香と蜜を少し，樹脂と没薬，ピスタチオ，アーモンドの実。それから……」（創世記 43・11）ナッツ類は贈り物として意味をなしていた。（表 16 参照）

戦争についてという項目では，敵陣に乗り込んだときのふるまいを教えている。そのなかで，「町を攻略しようとして長期にわたって包囲するとき，斧を振って木を切り倒してはならない。木の実は食糧にするから，それを切り倒してはならない。」（身命記 20・19）

17　菓　子

ダビデの長男アムノンは腹違いの妹タマルが好きだった。なんとかものにしたいと策を練った末，仮病を使ってお見舞いにきてもらうことにした。その病気見舞いには注文がついていた。アムノンは自分の目の前で料理を作らせタマルの手から食べたいというのであった。タマルは粉をこね目の前でレビボット『心』という菓子を焼き，鍋を取って彼の前にだした。食べさせようと近づくと，そのすきをみて，アムノンはタマルを襲った。（サムエル記 13・5）菓子が登場するのは稀でほかの箇所にはみあたらない。（表 14 参照）

18　乳　香

乳香とは樹木の木の肌からにじみ出る樹液を採取したもので，良い香りがする。食べ物ではないが食べ物と同じ空間で取り扱われるので取りあげた。（表 17 参照）

乳香はナッツ類の所に書いたように，カナンの土地の名産であると書かれている。また，安息日には，ユダの町々，エルサレムの周囲，ベニヤミンの地，シェフェラ，山地，ネゲブなどから，人々は焼き尽くす献げ物，いけにえ，穀物の献げ物，乳香を持参し，神殿への感謝の献げ物とした（エレミヤ書 17・26）と書

表 15　蜜

蜜	神の賜る良い土地	申命記 8・8	小麦，大麦，ぶどう，いちじく，ざくろが実る土地，オリーブの木と蜜のある土地である。
	箴言	箴言 25・16	蜂蜜を見つけたら欲しいだけ食べるがよい。しかし，食べ過ぎて吐き…
	箴言	箴言 25・27	蜂蜜を食べ過ぎればうまさは失われる。名誉を追い求めれば，名誉は失われる。
	インマヌエル預言	イザヤ書 7・15	その名をインマヌエルと呼ぶ。その子が災いを退け，幸いを運ぶことを知るようになるまで，その子は凝乳と蜂蜜を食べ物とする。

表 16　木の実

スピタチオ アーモンド	再びエジプトへ	創世記 43・11	父イスラエルは息子たちに言った。どうしてもそうしなければならないなら，こうしなさい。この土地の名産の品を袋に入れて，その人への贈り物として持って行くのだ。乳香と蜜を少し，樹脂と没薬，ピスタチオやアーモンドの実。

表 17　乳香

乳　香	穀物の献げ物	レビ記 2・1	上等の小麦粉を献げ物にしなさい。 奉納者がこれにオリーブ油を注ぎ更に乳香を載せる。
	穀物の献げ物	レビ記 2・14～16	初穂の献げ物をささげる場合，麦の初穂を火で炒って挽き割にしたものにオリーブ油を注ぎ，乳香を加え，司祭はこの 1 部と乳香全部をしるしとして燃やして煙りにする。

かれているので，おそらく乳香はこれらの土地で産出したのだろう。

しかし，乳香は北アラビアやアフリカ東部のソマリアに産出すると書かれている。(3, p. 206) 貴重品であろう。もっぱら献げ物とされている。小麦粉の上に載せて燃やし献げ物にした。むろん小麦粉の上に乳香をそえない時もある。これは乳香が買えない人々のための配慮であろう。

19　野　菜

野菜の固有名詞では苦菜が登場する。これは過越祭に食べる。イスラエルの民がエジプトを脱出するときの苦い体験を思い出す記念の食べ物の一つである。酵母を入れないパンとセットにして食べる。(出エジプト記11・8，民数記9・11，民数記11・5～6)（表18参照）

肥えた牛を食べて憎み合うよりは青菜の食事で愛し合う方がよい（箴言15・17）にみられるように，肉を食べることで争うよりも青菜を食べる方が争いのない穏やかな人間関係が保てると言う。牛の方が野菜より希少価値をもつことが推察される。

きゅうり畑も登場する。「そしてシオン（エルサレムの神殿）の娘が残った。包囲された町として。ぶどう畑の仮小屋のように，きゅうり畑の見張り小屋のように」（イザヤ1・8）イスラエルの民が神に背いたので，ユダの町は荒廃し，エルサレムの神殿の丘だけがまるで見張り小屋のようにかろうじて残った。きゅうり畑については次のような記述もある。「きょうり畑のかかしのようで，口も利けず，歩けないので，運ばれていく。」（エレミヤ書10・5）きゅうり畑にはかかしが立っている。このかかしを偶像にたとえてそんな偶像をおそれるなと言う。見張ったりかかしを立てたりしたのはきゅうりが相当大事にされていたのだろう。

その地は飢饉に見舞われていた。そこで野生のうりを見つけて刻んで煮物鍋に入れて食べようとしたが，毒が入っていた。(列王記下4・38～41) 野生のうりはかぼちゃに似ていて苦い有毒成分を含んでいる。

肉を避けて野菜を食べるダニエルの話もある。

バビロンの王，ネブカドネツァルがエルサレムを包囲し，イスラエルの少年を4人バビロンの宮殿に連行し，肉と酒を毎日与えた。ダニエルたちは（4人の少年のひとり），自分を汚すまいと決心し，食べ物は野菜と飲む物は水だけにしてくださいと頼み，10日間試しに実行させてもらった。その結果，宮廷の食べ物を食べているどの少年よりも健康と顔色が良かった。（ダニエル書1・1～16）これはのちに預言者として活躍するダニエルが菜食で酒を避け体を汚さないためという固い決意によるものである。

20　調味料

a　塩

人間が生きていく上で何よりも必要なものは，水と火，鉄と塩，小麦，牛乳，蜂蜜，ぶどうの汁，オリーブ油と書かれている。(シラ書39・26) 塩は水と並んで人々の暮らしの最重要品とされていた。(表19参照)

穀物の献げ物には塩をかける。この意味には諸説ある。1つは，塩は保存性を高め永続性のゆえに「契約の塩」的な意味合いであるという説と，いま1つは，契約の儀式では食事をする。そのとき会食者が塩を互いに分かち合ったという説である。(3, p. 207)

味のない食べ物が塩をつけずに食べられようかといい，卵の白身を例にあげている。(ヨブ記6・6) 塩味の大切さが述べられている。

b　ぶどうの酢

ナジル人は神に献げられた人の意味である。かれらはとくにぶどう酒を慎み，祭儀的不浄から身を守る。神に献げる期間は一時的な場合と一生の場合とがある。このナジル人は，ぶどうの酢，濃いぶどうの酢も一切飲んではならないという。(民数記6・3～4)

ぶどうの酢はぶどうの発酵が進んだ段階で酢になるので自然に酢ができるが，発酵の期間が長くなると酸味の強いものになり，濃い酢になる。ぶどうの酢のほかに，なつめやしからつくった酢（実を煮沸してつくる）もBC 400年頃にあったという。(12, p. 185)

表18　野菜・その他

苦　　菜	主の過越	出エジプト記12・8	酵母を入れないパンを苦菜を添えて食べる。
	月遅れの過越の規定	民数記9・11	第2の月の月遅れの過越の日，酵母を入れないパンと苦菜を添えてそのいけにえと食べなさい。
	民の不満	民数記11・5～6	エジプトで食べたきゅうりやメロン，玉葱，にんにくが忘れられないと泣き言を言った。
れだまあかざ	ヨブ記	ヨブ記30・4	無一物で飢え，衰え，あかざの葉を摘み，れだまの根を食糧としていた。

表 19　調味料

塩	穀物の献げ物	レビ記 2・13	穀物の献げ物にはすべて塩をかける。あなたの神との契約の塩を献げ物から絶やすな。
	ヨブは答えた	ヨブ記 6・6	味のない物を塩もつけずに食べられようか。卵の白身に味があるか。
	主とその御業への賛美	シラ書 39・26	人間が生きていくうえで何よりも必要なものは，水と火，鉄と塩，小麦粉，牛乳，蜂蜜，ぶどうの汁，オリーブ油，それに衣類。
ぶどう酢	ナジル人の誓願	民数記 6・3～4	ナジル人（特別に神に誓願を立てた者）ならば，ぶどう酒，濃いぶどう酒も断ち，ぶどう酒の酢も，濃い酒の酢も生のぶどうも干したぶどうも一切飲んではならない。
酢	ボアズの好意	ルツ記 2・14	食事のとき，ボアズはルツに声をかけた。「こちらに来て，パンを少し食べなさい，一切れずつ酢に浸して。」
	箴言	箴言 10・26	歯に酢，目に煙り，主人に怠惰な召し使い。
秤	聖なる者となれ	レビ記 19・35	あなたたちは，不正な物差し，秤，升を用いてはならない。正しい秤，正しい重り，正しい升，正しい容器を用いなさい。

21　その他

あかざの葉・れだまの根――飢えの食事

無一物で飢え，衰え，あかざの葉を摘み，れだまの根を食糧とした。（ヨブ記 30・4）あかざの葉とは，マルアル，おかひじき，ぜにあおいなどといわれる。すべて砂漠に自生している。れだまはえにしだのことで，砂漠に深く根を張り，水脈にまでその根を伸ばす。（10, p. 141, 144）

いのんど・クミン

農夫の知恵という箇所では，種によって播く場所が違うのは農夫の知恵であると述べられている。つまり，畑を平らにしたなら，いのんどとクミンの種は広く蒔き散らし，小麦は畝に，大麦は印をしたところに裸麦は畑の端にと，種を蒔くではないか。（イザヤ書 28・25）神はふさわしい仕方を農夫に示し，教えているという。いのんどはセリ科の植物，クミンは種を香料として用いる。

ま　と　め

旧約聖書に登場する食べ物は，人と神との契約，他人や自然との融合・共存をはかるための基本として位置づけられている。食べ物がたんに物ではなく，神を引き寄せたり逆に神を引き離したりする精神的なつながりを保つ手段として鮮明に描き出されている。出エジプト記（紀元前 1275 年頃）からイエスの誕生（紀元後 6 年）まで 1200 年あまりの年月のなかで，人々は神の恵みに感謝し，それを受けるにふさわしい人になれるように，食べ物の助けを借りた。

そこに見出された原理とは

1　食べ物は水，火に次いで生活に不可欠な 3 番目のものとして大切な地位を得て扱われたこと。

2　博愛の原則を貫くために貧者や弱者に対する工夫が細かくされていたこと。

3　食べ物は欲望をかりたて，おさえがたいものにする。しかし，欲望を制御しなさいと戒めている。

4　食べ物は神との契約，厳しいルールに則って食べられた。食べる場所，時，人が明確に定められていた。ハレとケ，来客，見舞い，聖所と家庭，非常時，飢饉，戦争・遠征など，時と場所に応じて食べ物やふるまいが使い分けられていた。

5　食べ物は野の木と草から生み出されるものがほとんどである。自然の恵みを工夫して最大限利用していた。

などである。

文　　献

1）新共同訳：聖書　旧約聖書続編つき　日本聖書協会 1997

2）高橋　虎，B. シュナイダー監修：新共同訳旧約聖書注解Ⅰ　創世記－エステル記　日本基督教団出版局 1996

3）高橋　虎，B. シュナイダー監修：新共同訳旧約聖書注解Ⅱ　ヨブ記－エゼキエル書　日本基督教団出版局 1996

4）馬場嘉市編：新聖書大辞典　キリスト新聞社　1984

5）David J. A. Clines edited : The Dictionary of Classical Hebrew Sheffield Academic Press 1995

6）旧約，新約聖書大事典編集委員会編：旧約，新約聖書大事典　教文館　1989

7）デニス・プレガー，ジョゼフ・テルシュキン著　松宮克昌，松江伊佐子訳：現代人のためのユダヤ教入門　ミルトス　1997

8）バルバローテルコル訳：旧約　新約聖書　ドン・ボスコ社　1965

9）ピーター・ミルワルド著，中山　理訳：聖書の動物事典　大槻館書店　1992

10）広部千恵子，横山　匡：新聖書植物図鑑　教文館 1999

11）和文・新共同訳，英文・Today's English Version：聖書 GOD NEWS BIBLE　日本聖書協会　2000
12）山本紀夫，吉田集而：酒づくりの民族誌　八坂書房　1995
13）泉　武夫，角田潔和，鈴木昌治編著：酒学入門　p. 5　講談社　サイエンティフィック　1998
14）ヘロドトス，松平千秋訳：歴史（上中下）岩波書店　1971 1972